

令和7年度全国高等学校総合体育大会弓道競技
第70回全国高等学校弓道大会
(鳥取県米子市:鳥取県武道館)

第55回東北高等学校弓道選手権大会
(秋田県秋田市:秋田県立武道館近の弓道場)

令和7年度秋田県高等学校総合体育大会
(秋田県立武道館近の弓道場)

大会参加報告



AKITA KYUDO TEAM

SINCE 1958

秋田県立秋田高等学校弓道部

鶯弓会のみなさまには、本校弓道部の活動に対し、平素より多大なご支援、ご声援をいただきまして誠にありがとうございます。このたび2年連続7回目の出場を果たしました令和7年度全国高等学校総合体育大会弓道競技、第70回記念全国高等学校弓道大会におきましても会員のみなさまから物心両面のご支援をいただき、本校弓道部は無事に大会を終えることができました。今年度は、昨年度の7位入賞を越え、全国制覇を目標に据えてのインターハイ（以下IH）チャレンジでしたが、悔しくも予選不通過となりました。ただ、選手としてこれまで戦ってきました3年生はみなさまの温かいご声援に後押しいただき、高校弓道をやりきることができました。本当にありがとうございました。

さて、2年連続のIH出場権を獲得いたしました全県総体では、男子団体が予選3位通過（9中・12中・11中計32中/60射）したものの、昨年度同様、決して高的中での通過とは言えず決勝の調子次第と不安の残る状態がありました。迎えた翌日の決勝リーグでは、本校13-12角館、本校13-12本荘、本校12-7由利と、どの試合も手に汗を握る展開でしたが、一本を大切に試合運びができた結果、鳥取への切符を獲得することができました。また、翌日の個人決勝には新目琉喜・土門真鳳の2名が進出し、新目が20射16中で第4位入賞（東北選手権出場）、土門が20射14中で第5位入賞（東北選手権出場）を果たしました。決して高的中での鳥取IH切符獲得ではありませんでしたが、これまでの県内大会で負け知らずであったがゆえに生じるプレッシャーを跳ね返し、結果を出した選手たちの大きな成長を実感した大会となりました。

東北選手権は、地元秋田での開催であり、これまでのベスト8⇒決勝トーナメントの形式から、3回の中制の試合へと様変わりしました。今年度のIHは第70回の記念大会であり、ブロック代表校に各ブロック大会の結果でIH出場権が与えられるためでした。本校選手は昨年度に引き続きの出場となり、また東北選抜、全国選抜、東日本大会にも出場し経験も十分な状態での出場となりました。ですが、結果は振るわず6位となりました。上位大会で結果を出すことの難しさ、また大舞台に動じず自らの稽古の成果を発揮する難しさを改めて感じた大会となりました。反面で、大会に参加した東北各県の先生方から本校の射にお褒めの言葉をいただくことができ、自分たちが磨いてきた射が間違っていなかったと勇気を持てる大会にもなりました。

そして再び高校生の夢舞台となる鳥取IHへと臨みました。鶯弓会のみなさまをはじめ、本当に多くの方々から物心両面で支えていただけましたおかげで、選手・監督ともに試合で「秋田高校の射をする」こと、まっすぐ引くことに集中することができました。秋田では味わうことのないような西日本独特の暑さの中で体調管理につとめ大会当日まで現地練習を重ねました。「全国優勝を果たし、みなさまに恩返しをする」、このことを目標に練習、予選と臨みましたが、予選では12中で同中競射となり、最後の最後であと1本が及ばず、涙をのむ結果となりました。

鶯弓会のみなさまに昨年度に引き続いてのIH出場を大いにお喜びいただき、ご声援いただきましたことにこの場をお借りして御礼申し上げます。誠にありがとうございました。3年生はこれで引退となり、現在は志望校合格という自らの的を射貫こうと日々努力を重ねております。2年生、1年生は自分たちも3年生のように全国で活躍したいとこれまで以上にやる気に満ちた表情で部活動に取り組んでおります。このような状態が継続して部活動ができておりますのは先輩方が1958年の創部以来、精力的に活動を継続し、伝統を築いてくださったおかげであると強く感じております。時代が変わり、様々なものが変わっても、秋田高校弓道部で真摯に弓に向き合い、自分の成長のために日々努力するという姿はこれからも変わらないものと信じております。今後とも先輩方から伝統を継承する後輩達にご指導とご声援をくださいますようよろしくお願い申し上げます。



男子団体 2 連覇 (7 度目の優勝)



第 55 回東北高等学校弓道選手権大会 (6月21日～6月22日：秋田県立武道館近隣の弓道場)

【男子団体】メンバーの構成は全県総体と同じ

2	秋田	秋田	須田 真	1	伊藤 澄弥	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	×	×	6					
				2	森川 月	×	○	○	×	○	○	○	○	×	×	○	○	8					
				3	小野 慧士郎	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	○	○	8					
				4	我満 啓志	×	○	○	×	○	○	×	○	×	×	○	×	6					
				5	新目 琉喜	×	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	×	7					
				6	石田 康晴	小計	10				小計	14				小計	11				35	全体 順位	6
				7	石塚 啓介																		

男子								
学校名		1回目		2回目		3回目		順位
		的 中	的 中	的 中	的 中	総 数	総 数	
八戸工業	青森1	16	12	28	18	46	2	
秋田	秋田1	10	14	24	11	35	6	
花巻北	岩手1	15	9	24	12	36	5	
東北学院	宮城1	10	12	22	11	33	7	
角館	秋田3	6	10	16	8	24	12	
平工業	福島1	9	10	19	11	30	10	
福島工業	前回優勝	16	16	32	14	46	1	
致道館	山形1	9	10	19	12	31	9	
一関工業	岩手2	12	10	22	15	37	4	
八戸	青森2	9	14	23	7	30	10	
山形工業	山形2	10	16	26	12	38	3	
いわき湯本	福島2	7	12	19	14	33	7	
本荘	秋田2	7	10	17	5	22	13	
仙台	宮城2	6	8	14	7	21	14	

個人戦

- 16 土門真鳳 (2年)
×○×○×○○○ 5中 予選不通過
- 27 新目琉喜 (3年)
×××○○○×× 3中 予選不通過
決勝進出ライン (6位タイ) は6中

団体戦

IH 出場校 (青森：八戸工業、岩手：花巻北、山形：致道館、宮城：東北学院、福島：平工業) は1回目で明暗が分かれるようなスタートになるも、2回目の結果で順位が大きく入れ替わるなど、まだまだ不安定さを払拭できない状況が見られました。そんな中、昨年度の優勝校である福島工業高校は深い会、抜群の的中力で、八戸工業高校は爆発力で上位を疾走しました。これらのチームを目の当たりにし、まっすぐに弓を引くことを徹底するだけでなく、その力を最大限に高め的中につなげていくために深い会の安定が必要であるとチームで考え、稽古をしていくことを決めた大会でした。

本校成績は第6位 (昨年度ベスト8)

優 勝 福島工業高校 2年連続
技能優秀校 福島工業高校

東北ブロック代表校

男 子 山形工業高校 (山形県)
女 子 秋田北高校 (秋田県)

令和7年度全国高等学校総合体育大会弓道競技 第70回全国高等学校弓道大会 (7月31日～8月3日：鳥取県立武道館特設弓道場)



今年度は第70回記念大会であったため、全国47都道府県の代表と各地方ブロックの予選を勝ち抜いた58校が日本一を目指して競う大会となりました。予選12中で射詰競射となり、本校もそこから決勝トーナメント進出を目指すことになりましたが、わずかに力及ばず、涙をのむ結果となりました。(詳細は次ページ以降)ですが、全国の頂点を目指し、真摯に弓道と向き合ってきた生徒の姿に成長を感じることができました。これはひとえに、鶯弓会のみなさまからご支援いただき、弓に集中できる環境を整えていただきましたおかげでございました。ありがとうございました。

令和7年度第70回記念全国高等学校弓道大会 秋田高校 行程表

行動予定	時刻	イベント	備考	
7月28日 (月) 移動日	8:00	秋田空港集合	大きな荷物は必要に応じて、事前に宿舎に配送	
	9:40	秋田空港 離陸	JAL2152便	
	11:05	伊丹空港 到着	昼食等の自由時間あり	
	13:00	大阪城弓道場へ移動	レンタカーでの移動	
	13:30	大阪城弓道場で練習	個人利用 (的は現地のものを利用)	
	15:30	大阪城弓道場出発	レンタカーでの移動 (途中夕食休憩)	
	19:00ごろ予定	宿舎に到着	配送済みの荷物を受け取る	
	22:00	就寝	翌日からの日程に向けてしっかり休養をとる	
7月29日 (火) 公式 練習日	6:00	起床		
	6:30	朝食		
	8:20	開場時刻：到着目標	ただし、会場との位置関係により多少変動あり	
	午前	□受付⇒IDカード着用		
		□会場の把握 (トイレ、導線、控所etc) : 特に射場内 (1階) のイメージ作り		
		□弓具点検(6人)⇒必要あれば弓具修理		
		□巻藁練習 (巻藁は10台程度)		
		□近的射場での的前練習		
	11:09	設定練習受付集合	行射1時間前のルーティン	
	11:24	設定練習行射開始時間	緊張感をもって	
	12:09	公式練習集合時間		
	12:24	公式練習開始時間 B14	射場を楽しむ	
12:31	公式練習終了	矢の取り違い等に注意		
昼食後	練習会場へ移動			
16:00頃	練習終了			
寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング				
22:00	就寝			
7月30日 (水) 練習日	6:00	起床		
	6:30	朝食		
	8:30	会場到着予定	会場入りして散歩・雰囲気を感じる	
	9:30ごろ	練習会場へ移動		
	到着後	練習開始		
	16:00頃	練習終了		
	寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング			
22:00	就寝			
7月31日 (木) 個人戦	5:30	起床		
	6:00	朝食		
	7:30	会場到着予定		
	8:50~9:10	開会式		
	9:30	男子個人予選 開始		
	10:25	男子個人予選 終了予定	秋田県出場選手では新屋高校2年の槇木選手が決勝まで進出しました。惜しくも入賞は逃しましたが、今後に期待を抱く立派な射を披露しました。	
		女子個人予選 開始予定		
	11:20	女子個人予選 終了予定		
	11:30~12:45	個人準決勝戦	坐射	
	12:55~14:40	個人決勝戦	坐射	
	※団体の練習については12:18集合、12:28行射開始の団体A32を予定 (近的射場)			
※個人戦の状況によっては、練習会場に移動して練習				
寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング				
22:00	就寝			

行動予定	時刻	イベント	備考
8月1日 (金) 団体 予選	5:30	起床	秋田県出場校の成績 女子 立順 34 新屋高校 14中 予選通過 立順 40 秋田北高校 9中 予選不通過 予選通過は11中(10校による射詰) 男子 立順 4 秋田高校 12中 予選不通過 予選通過は12中(12校によ射詰)
	6:00	朝食	
	8:00	会場到着予定	
	11:30	近的射場招集	
	11:40	団体選手設定枠練習	
	12:17	集合時刻	
	12:32	団体戦 行射開始	
	それ以降	状況によ	
	※状況を見ながら、遠的射場若しくは他の		
	寄宿後は夕食・休憩・学習		
22:00	就寝		
8月2日 (土) 決勝T 1st 2nd round	5:30	起床	秋田県出場校の成績 女子1回戦 新屋高校(秋田)―田方農業(静岡) 9中―13中 新屋高校はベスト32
	6:00	朝食	
	7:30	会場到着予定	
	8:45	男子団体決勝T1回戦招集開始	
	9:00	男子団体決勝T1回戦開始	
	13:15	男子団体決勝T2回戦招集開始	
	13:30	男子団体決勝T2回戦開始	
	14:45	男子団体決勝T2回戦終了予定	
	それ以降	状況により、応援または練習	
	※状況を見ながら、遠的射場若しくは他の練習会場で練習、翌日に備える		
寄宿後は夕食・休憩・学習・ミーティング			
22:00	就寝		
8月3日 (日) 決勝まで	5:30	起床	
	6:00	朝食	
	7:30	会場到着予定	弦を張り、可能ならば巻薬練習
	7:50	設定枠練習集合時間	前日の状況による
	8:45	決勝T準々決勝招集開始	トーナメントの組み合わせ次第
	9:00	決勝T準々決勝試合開始	
	10:05	団体5～8位決定戦	5～8位表彰式も試合後に即実施
	10:50	男女準決勝	
	11:35	団体3・4位決定戦	3・4位表彰式も試合後に即実施
	12:20	男女決勝	秋田高校の射を堂々とやりきる
	競技終了後	閉会式(表彰式)	大会記録用写真撮影あり
	競技終了後	神戸市まで移動	レンタカーによる移動
8月4日 (月) 移動日	7:00	起床	
	7:30	朝食	
	8:30	宿舎出発	忘れ物がないように十分注意
	9:20頃	伊丹空港 到着	手続きを済ませ、搭乗まで自由行動
	12:00	伊丹空港 離陸	JAL2173便：手荷物は少なく
	13:15	秋田空港 到着	現地解散

詳細な試合の内容につきましては、【全国高体連弓道専門部】のページからもご覧いただけます。

<https://kyudo-zenkoku.com/10-taikai/presenttime/pdf/kekka-soutai20251006.pdf>

本校成績

4	秋 田 県	秋 田	須 田 真	伊藤 澄弥	○	×	○	○	3	12	○	×
				森川 月	○	○	○	○	4		○	○
				小野 慧士郎	×	○	○	○	3		○	×
				我満 啓志	×	×	×	○	1		×	○
				新目 琉喜	×	×	×	○	1		×	×
				石田 康晴								
											3	2



12 中予選競射進出校

1	鳥取西	3-4	通過	31	岩 国	2	敗退
2	伊賀白鳳	3-3	通過	35	高知商業	3-5	通過
4	秋 田	3-2	敗退	37	作新学院	4	通過
14	札幌英藍	2	敗退	38	宮崎工業	3-1	敗退
15	明石商業	4	通過	45	前橋商業	4	通過
19	三田学園	4	通過	50	桜 丘	3-3	通過

2 的の森川選手は一本も外すことなく試合を終えました。あと1本が遠く、2年連続での決勝トーナメント進出が叶わず、インターハイを終えることになりましたが、最後は横皆中で試合を閉め、会場から万雷の拍手をいただいていたの退場となりました。射詰競射では、2本抜いたら負けという試合展開となり、非常に厳しい戦いとなりました。全国大会常連校、前年度の全国選拔出場校や東日本大会出場校も射詰に回中、試合は熾烈を極めました。どんな状況でも詰め切る稽古がもっと必要であったと監督として反省しております。

昨年度も出場している選手たちは、非常に多くの試合経験を積んできている反面で、非常に過密なスケジュールの中、毎月試合をしている状況でありました。そのような状況の中で、体調管理、メンタルコンディション管理をより精緻に行ったり、心身の様子を把握しながら、射技の向上を促したりすることにおいて監督としてまだまだ至らない点が多くあったと反省しております。

今後のチームは今年のチームと異なり、経験も浅いチームとなりますが、秋田高校弓道部が今後も全国の舞台上で活躍すること、日本一を目標としていくことは変わりありません。諸先輩方からのご指導ご鞭撻を引き続きいただきながら前進したい、来年度の和歌山の会場で秋田高校の名を轟かせたいと考えておりますのでどうぞよろしく願いいたします。



